

NHK大河ドラマ「べらぼう」の世界を歩く

1. 日 時

2026年3月28日(土) 10時頃～16時頃

2. 集合場所

JR常磐線南千住駅改札口外、つくばエクスプレスも東京メトロ日比谷線も至近駅有
9:50集合 出発後に、遅れた場合はルートに従って追いついてください

昼食は弁当など各自ご用意ください 水筒など飲料も忘れずに 雨天中止

交通費は各自負担 資料は印刷してお持ちください 事前予約不要

3. 概略ルート おおむね 8.2km (歩いている時間 約 120 分)

JR南千住駅改札口出発 ⇒ 平賀源内の墓 ⇒ 三ノ輪・浄閑寺(投げ込み寺)
⇒ (土手通り)あしたのジョー像 ⇒ 吉原入口・見返り柳 ⇒ 蔦屋耕書堂跡地
⇒ 吉原大門 ⇒ 吉原公園(遊郭大文字楼跡地) ⇒ 吉原神社 ⇒ 吉原弁財天
⇒ 吉原五十間通りを戻って「見返り柳」へ 吉原遊郭跡地を堪能します

日本堤跡 ⇒ 山谷堀公園(桜を愛でる)ここで昼食 ⇒ 正法寺・蔦屋重三郎の墓
⇒ 待乳山本龍院 ⇒ 浅草寺(東口横から入る) ⇒ 仲見世通り ⇒ 浅草雷門
ここで解散 東京メトロ銀座線・東武鉄道・都営浅草線の各駅があります

※ 体力のある方は、東武鉄道でひと駅の「東京スカイツリー」もいかがでしょうか
歩きやすい服装と運動靴でご参加ください。途中の離脱も可能です。

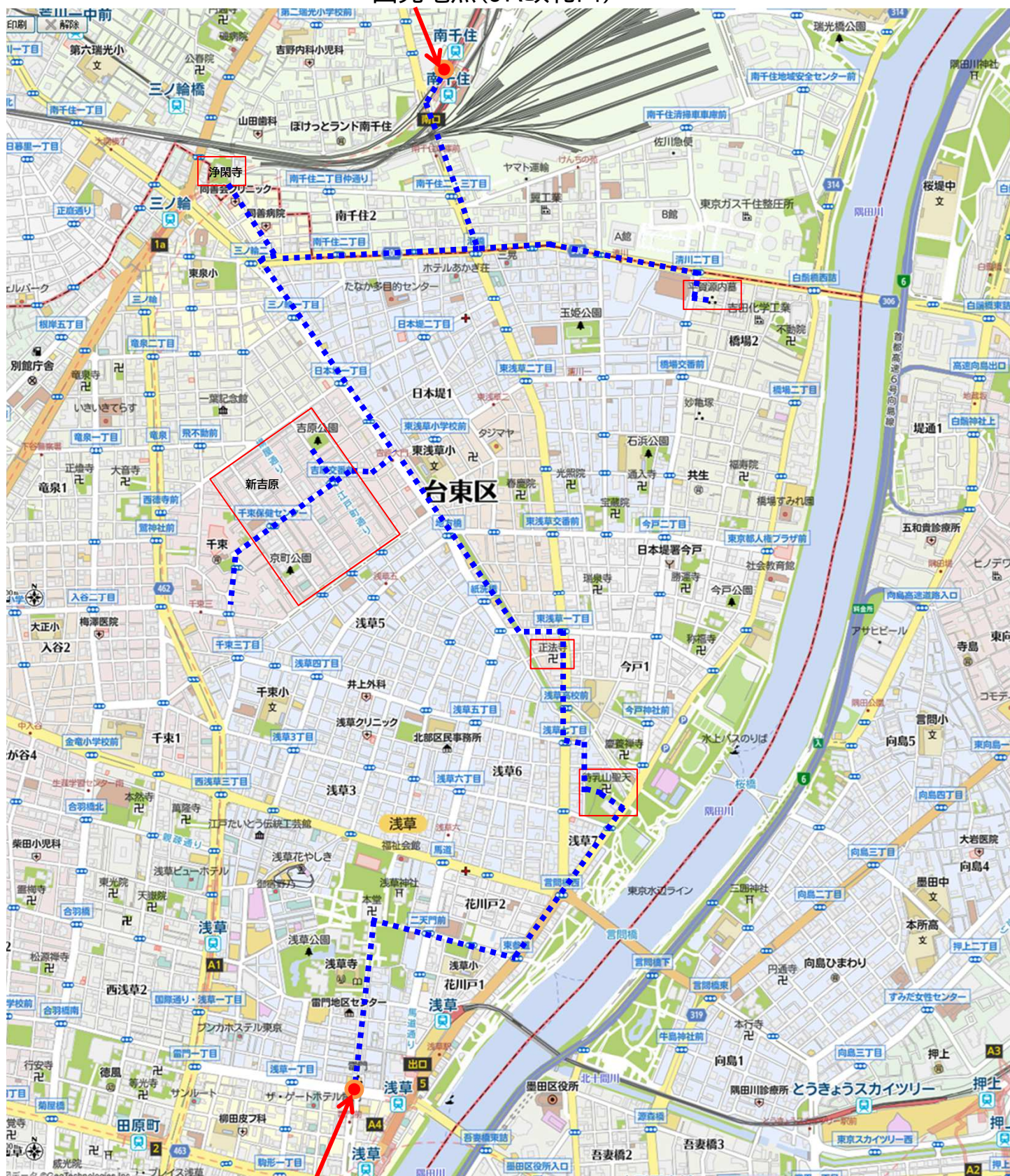
東京桑野会歴史探訪散歩の会『べらぼうの世界～三ノ輪・新吉原・奥浅草を歩く』

探訪先	概 要
(台東区橋場) 平賀源内の墓	源内は、江戸時代中期から後期にかけて、エレキテル(摩擦起電機)の復元製作や、火浣布かかんぷ(石綿の耐火布)の発明をする他、鋤山開発などの事業から滑稽本・浄瑠璃本の著作に至るまで、マルチな才能を発揮、多方面で活躍した。安永8年(1779)に過失で殺傷事件を起こし、小伝馬町牢内で獄死、総泉寺に葬られた。同寺が板橋区小豆沢に移転した後も墓はこの地に保存され、昭和6年(1931)に、生まれ故郷の旧高松藩当主・松平頼壽によって築地堀が整備され、昭和18年(1943)には国史跡に指定された。
(三ノ輪) 浄閑寺	荒川区三ノ輪に在る浄土宗の寺院。明暦元年(1655)の開創で、寛保2年(1742)に山門等が建てられた。安政2年(1855)の大地震で犠牲となった新吉原の遊女たちの遺体が投げ込み同様に葬られたことから、通称「投げ込み寺」とも呼ばれた。昭和38年(1963)建立の『新吉原総霊塔』に花又花酔の句が刻まれている。「生まれては苦界、死しては浄閑寺」
(土手通り) あしたのジョー像	漫画家ちばてつやの作品「あしたのジョー」の像が立つ。「あしたのジョーのふるさと」である、いろは会商店街の吉原側に建てられた「あしたのジョー像」。汨橋交差点のそばから土手通りにかけて連なっているいろは会商店街。商店街(や地域の)活性化のために2012年にこの像が建てられました。「あしたのジョー」の舞台となった、いわゆる「山谷のドヤ街」とはこの一帯のこと。江戸時代の木賃宿をルーツに、高度経済成長期の東京を支えた場所であると同時に日雇い労働者の街でもありました。現在ではその面影もごくわずかです。
(吉原) 見返り柳	五十間道への入り口にあたる山谷堀脇の土手に植えられた柳。遊客が帰る時、この辺りで名残り惜しそうに振り返ったことから名付けられた。京都島原遊郭の門口に植えられていた柳を模したと伝わる。現在の柳の木は六代目。
(吉原大門前) 蔦屋耕書堂跡地	蔦屋重三郎が吉原を出て、最初に自分の本屋を構えた。平賀源内の命名により「耕書堂」とした。安永元年(1772年)に創業となっている。後に日本橋油通町に本店を出店した。天明3年(1783年)のことである。
(吉原) 五十間道	日本堤から吉原大門までを結ぶ、文字どおり50間(約90m)の道。両側には引手茶屋、小料理屋が軒を並べた。S字カーブは、貴人が日本堤を通る際に、遊郭の存在を見せない工夫。この坂は『衣紋坂』と呼ばれるが、遊客がここで衣服を改めたことに因むと云う。

吉原遊郭	明暦3年(1657)の『明暦の大火』後、日本橋に在った吉原(元吉原)は、浅草北部の田圃に移された⇒『新吉原』。周囲を堀、更にその周りを“お羽黒どぶ”が廻らされた横約330m・奥行約250mの文字どおり郭に、最盛期には3,000人の遊女が在籍していたと云う。出入口は吉原大門の1カ所のみだった。中央の『仲之町通り』には、春は桜、秋には紅葉を一時的に移植し、特別な空間を演出していた。
(吉原) 大門跡	吉原唯一の出入口。治安・防犯のためだけでなく、女郎の逃亡を防止することが最大の目的。“おおもん”と京風に呼ぶのは、芝増上寺の大門(だいもん)と区別するためと云う。
(吉原) 吉原公園	かつて吉原遊郭の大籬(おおまがき＝格式の高い女郎屋)のひとつ、『大文字楼』の跡地。『角海老楼(かどえびろう)』、『稲本楼』と共に“江戸三大妓楼”といわれた。因みに『稲本楼』は現在のホテル稲本辺り、『角海老楼』は千束保健センター交差点北角のマンション辺りに在った。
(吉原) お歯黒どぶ跡	女郎や無法者の逃亡を防ぐため、吉原遊郭を囲むように造られた堀。幅5間(約9m)。名称の由来は女郎が捨てた鉄漿(おはぐろ)汁を捨てたから。或いは、お歯黒のように黒くて汚いどぶからとの説もある。現在は『お歯黒どぶ石垣の擬定地』に名残を留めている。
(吉原) 吉原神社	明治14年(1881)に吉原遊郭の守護神として鎮座していた5つの稲荷社を合祀して創建された神社。大門前の『吉徳(玄德よしとく)稲荷』と、吉原遊郭の四隅に配置された『九郎助稲荷』『榎本稲荷』『明石稲荷』『開運(松田)稲荷』。当初は吉徳稲荷社の旧地に祀られたが、昭和9年(1934)に現在地に新社殿を造営して遷座した。併せて近くの吉原弁財天も合祀した。御祭神は倉稲魂命(うかのみたまのみこと)と市杵島姫命。
(吉原) 吉原弁財天本宮	吉原神社の境外社(けいがいしゃ)。この場所には昭和34年(1959)まで弁天池や花園池が在り、弁天池の畔には弁財天の祠が在り、吉原遊郭の関係者の信仰を集めていた。これが現在の吉原弁財天本宮の起源。社殿は平成24年(2012)に改修工事が行われ、壁一面に東京芸大の学生による壁画が描かれた。境内には、吉原の歴史を後世に伝える『花吉原名残碑(はなのよしはらなごりのひ)』や関東大震災の時にこの地に避難して来て池で溺死した約500人の女郎たちを慰霊する『吉原観音像』が建っている。
日本堤	山谷堀右岸(西岸)に沿って、元和6年(1620)に築造。二代将軍秀忠が八十余州の大名に命じた『天下普請』で、三ノ輪から今戸までの13町(1.4km)の区間に高さ3m、幅8mの堂々たる堤防を60余日で完成。名の由来は全国の諸大名が築いたからだとも、聖天町から山谷町にかけてもう一つの堤があり、『二本堤』が『日本堤』に転じたとの説もある。関東大震災の4年後の昭和2年(1927)、日本堤は取り崩され、現在は“土手通り”として痕跡を留めている。
山谷堀	元々は音無川が三の輪で別れ支流として隅田川に流れ込んでいた河川。これを改修して水路にしたのは江戸初期のこと。総延長13町(1.4km)。明暦の大火(明暦3年1657)のあと、公設遊郭が新吉原に移転、山谷堀は遊郭への交通ルートのひとつとなり、遊客を乗せた猪牙舟で賑わったが、猪牙舟を使って遊郭に通うのは大層贅沢な遊びであった。『猪牙舟』は猪の牙のように舳先が細長く尖った屋根なしの舟。長さ約30尺(約9m)・幅約4尺6寸(約1.4m)。
(正法寺) 蔦屋重三郎の墓 1750/02/13 生 1797/05/31 没	蔦屋重三郎(喜多川柯理きたがわからまる)の菩提寺として知られる日蓮宗寺院。神楽坂の善國寺、芝の正傳寺と共に“江戸の三大毘沙門天”、と謂われる毘沙門天像を安置している。境内には現在、復刻した蔦屋歴代墓碑と顕彰供養碑が建つ。嘗て旧本堂の裏手に蔦屋家歴代及び蔦重本人の墓が在ったが、度重なる震災・戦災で全て失われた。現供養碑に刻まれた『喜多川柯理墓碣銘きたがわからまるぼけつめい/石川雅望まさみち(宿屋飯盛やどやのめしもり)』は嘗ての蔦重本人の墓に、『実母顕彰の碑文/太田南畝(蜀山人)』は嘗ての蔦屋歴代墓の左側に刻まれていたもの。現墓碑に刻まれた蔦重の法号は『幽玄院義山日盛信土』。萬霊塔には、寺が被災する度に歴代住職が守り、収集して来た遺骨が納められている。
(待乳山) 待乳山本龍院	待乳山は浅草寺の北東、隅田川西岸の標高10mの丘で、江戸時代より文人墨客に愛された景勝地。この山上に在る『待乳山聖天宮』の正式な名称は本龍院と云い、浅草寺の支院のひとつ。御本尊は十一面観音菩薩を本地仏とする歓喜天(聖天)で、象頭人身の男神が抱擁している姿をしており、特に夫婦和合の御利益があるとされ、子授け・良縁・富貴の成就が叶うとして、広く信仰された。境内各所に見られる“大根・巾着”はそのシンボル。
浅草寺 仲見世通り 浅草雷門 界限	皆さんよくご存じでしょう。説明は割愛します。たいへんお疲れ様でした。解散します。

散歩ルート概略図

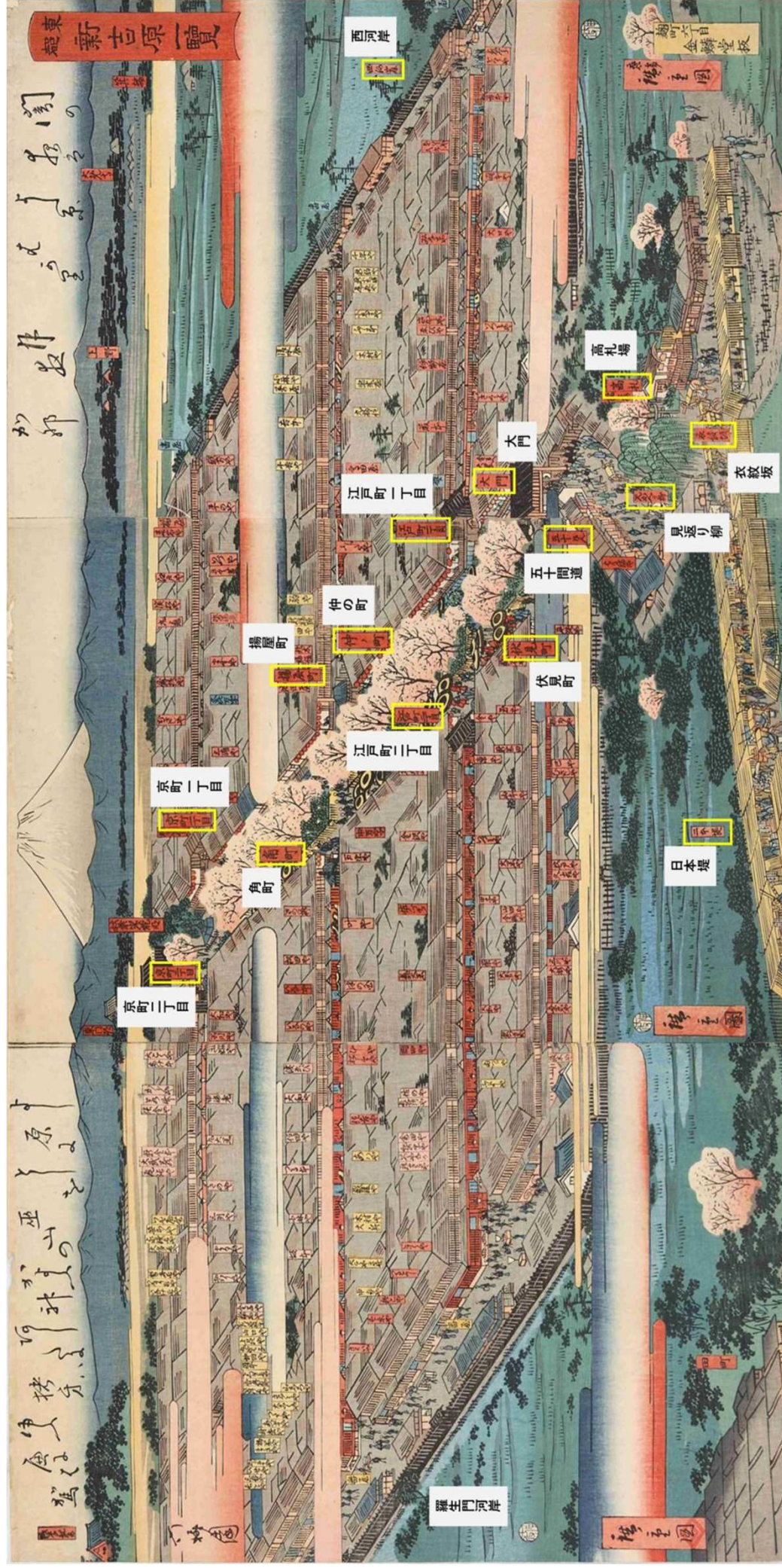
出発地点(JR改札口)



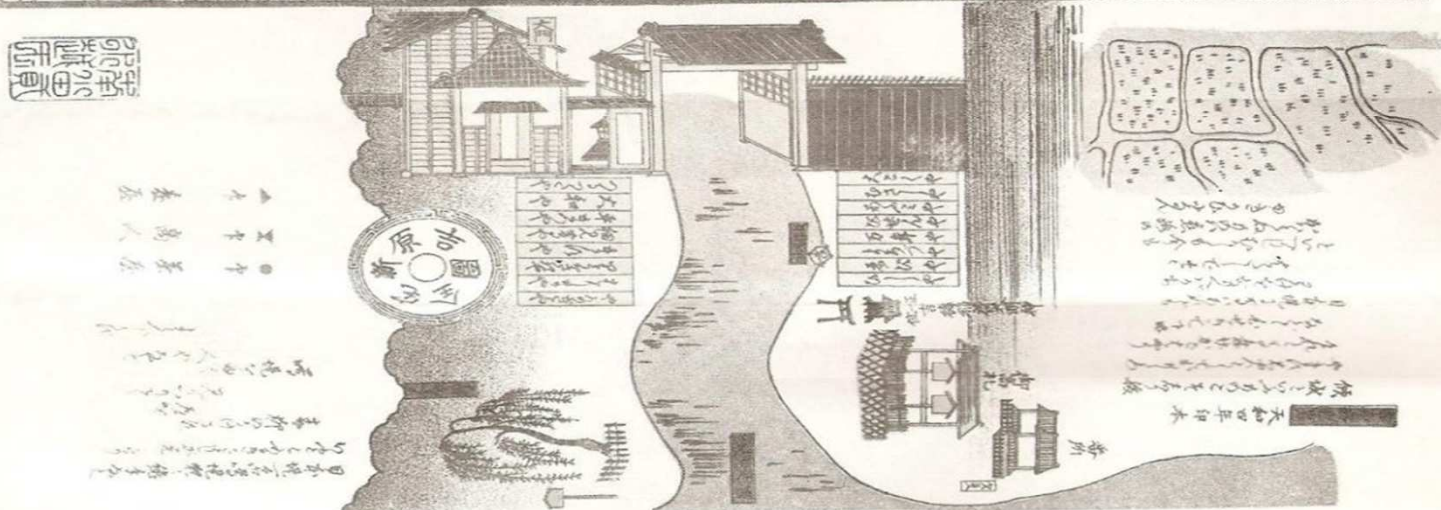
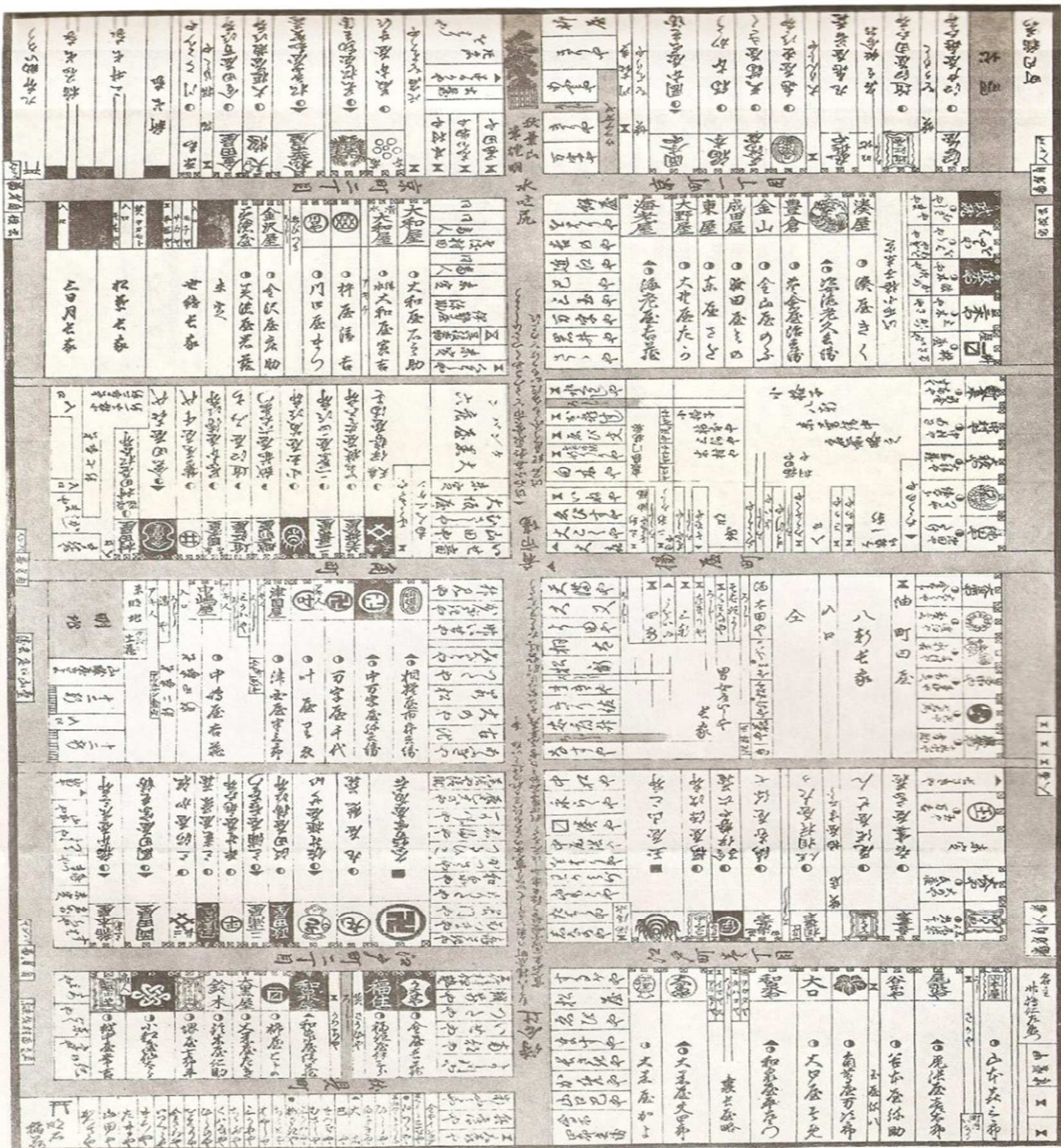
ゴール地点(浅草寺雷門)

新吉原遊郭 1657年～1958年(1956年に売春禁止法成立)





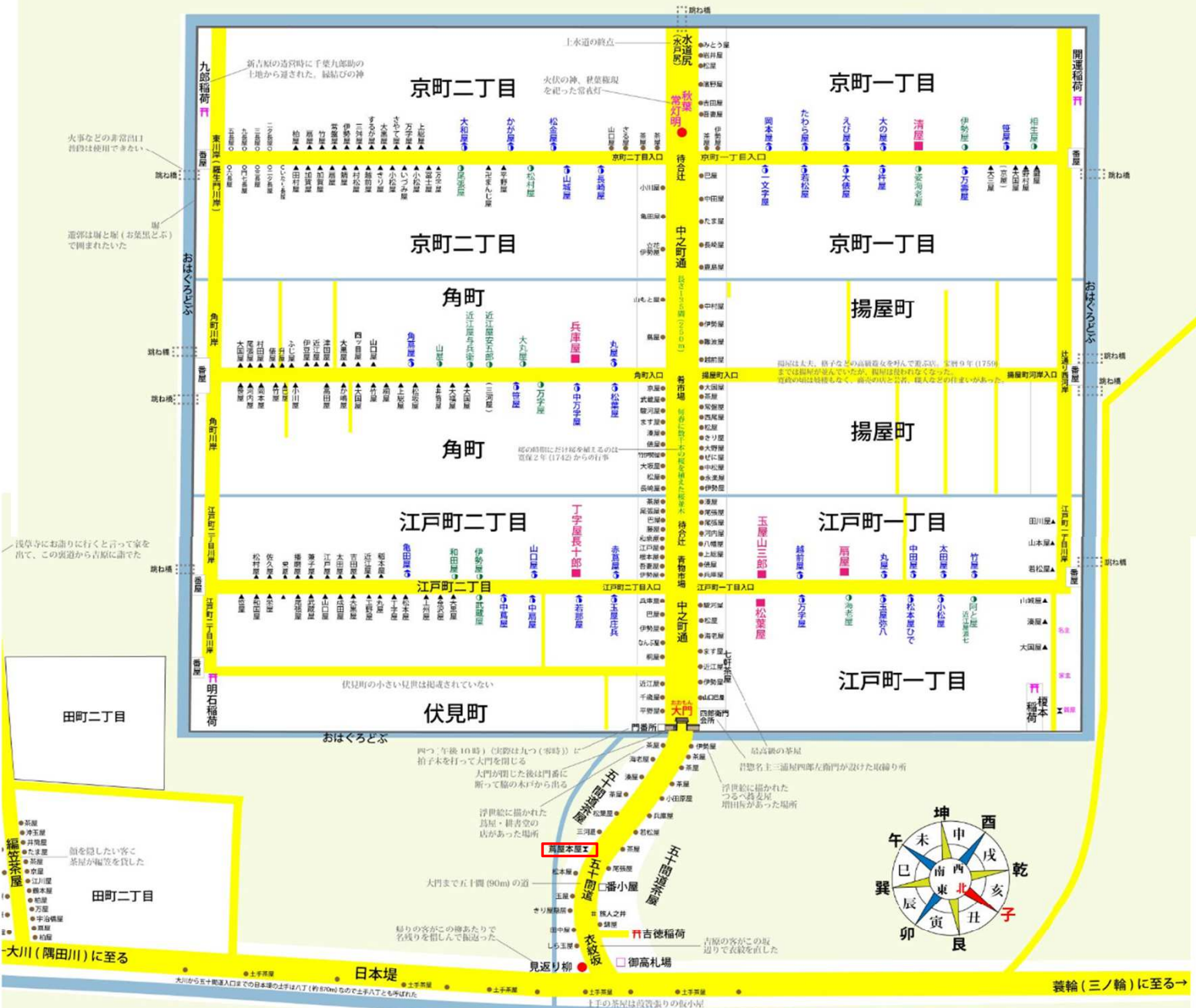
新古今原一覽 金鱗堂版



天和四年 新吉原細見図(1684年) 蔦重生誕(1750年)より前

新吉原 細見図

寛政七年 (1795 年)



新吉原の寛政七年 (1795 年) の地図を、同年の新吉原細見から復元しています。
・妓楼の横並び順は新吉原細見の順番の通りです。妓楼の位置や大きさは正確にわからず、地図はこの細見の 60 年前に発行されたのが最後であるため、店の規模から間口を推測して地図上の位置を決めています。

原曲 参考資料

凡例

地名	地名、町、道、川等の名前
川、池、堀	
田、畑、荒地等	
道	

>新吉原地図 寛政7年(1795年)版

妓楼 合印 (あいじるし) (格付け記号)

- 大籠 大見世 (おおまがき おおみせ)
- 中より半籠 交見世 (はんまがき まじりみせ)
- 惣半籠 見世 (そうはんまがき みせ)
- (合印の無い見世)

Copyright © TonbiWing (トンビが見た江戸の町) All Rights Reserved.

寛政七年(1795年) 蔦屋重三郎45歳の時